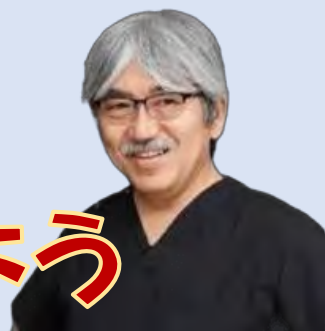
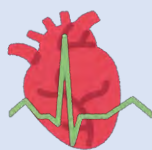




不整脈IQを鍛えよう

～ うまく治せるものから命にかかわる怖い症状まで ～

ちまたではまだ耳慣れない「不整脈」。不整脈って何かよくわからない、「不正脈」って書かれたりして、確かに正しくない脈ではあるけれど、まさに整っていない見薬という不整脈ですが、うまく治せるものから命にかかわる怖い不整脈までさまざまです。

心臓の調律では遅い脈を徐脈、速い脈を頻脈と呼びます。その定義は、心拍数が1分間に50回以下を徐脈、1分間に100回以上以上を頻脈と定義します。人間は眠ると脈は遅くなり、走ったり興奮したりすると脈は速くなる生理的徐脈・頻脈がありますが、一方で病的な徐脈ではペースメーカーの植え込みが必要となる場合や、病的頻脈ではカテーテルを挿入して患部を焼くカテーテルアブレーション治療を必要とすることがあります。

不整脈で受診する患者さんの中には、家庭血圧計で測った際に脈がバラバラのために心拍数が計測不能の表示が出たために受診となることがあります。

病的な不整脈であることが少なくなると、期外収縮や心房細動と診断された場合には十分に治せることも多いため、経験豊富な専門医を受診することをお勧めします。

当院に受診される患者さんの多くは、症状の有無にかかわらず脈が整っていないという脈の以上（不整脈）である場合や、心臓の拍動の以上である「動悸（ドキドキ）」を自覚する方も多いです。その場合、自分の症状を自分なりに説明できるようにしておくことが大事です。

例えば、拍動が強く規則的にゆっくりドキドキ、規則的に速いトットトット、不規則に拍動が途切れるトントントンなど。早く拍動の場合、その頻脈は突然始まるか、徐々に収まるのか、など症状が説明できるかどうかで、正しい不整脈診断を得る上で重要な場合も多々あるからです。長時間心電図を含めた検査による客観的評価が必要となります。